



患者用インフォメーション

## ビスフォスフォネート治療と口腔 (Bisphosphonate ; BP)

### ビスフォスフォネート治療について Q&A

**Q: ビスフォスフォネートって何?**

**A:** ビスフォスフォネート(ビスホスホネートともよばれる)とは、骨の吸収(骨の脆弱化や破壊)を防ぐために用いられる医薬品です。これらは1970年代以降使用され、近年のテクノロジーの進歩によって、より少ない服用頻度でも有効なものが可能になってきています。経口薬もあれば、医院や病院での静脈内注射が必要なものもあります。例として、Actonel™, Zometa™, Fosamax™, Boniva™ などがあります。

**Q: どんな病気の治療にビスフォスフォネートが使われるの?**

**A:** ビスフォスフォネートは以下の疾患への適応が認められています。

**骨粗鬆症(骨粗しょう症):** 閉経後の女性に多くみられる骨密度の低下

**悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症:** 骨の破壊に起因する血中カルシウム濃度の上昇

**がんの骨転移:** 骨組織へのがん浸潤。

**Q: これらの薬の副作用は口の中におこるの?**

**A:** はい。この副作用はまれであるものの、患者が知っておくべき重要なことです。この5年来、抜歯やその他の侵襲的な歯科治療後の治癒に困難がみられる、**顎骨壊死**とよばれる病変についての症例が報告されてきました。(右参照: 壊死した骨の露出がみられる。) その患者らに唯一共通していたのは、ビスフォスフォネート系薬剤の使用でした。結果、薬剤のみがその因子ではないものの、顎骨壊死とビスフォスフォネートとの関連が多くの医師に認められるようになりました。





## 患者用インフォメーション

# ビスフォスフォネート治療と口腔 (Bisphosphonate ; BP)

**Q: どれだけ頻繁にビスフォスフォネート系薬剤に関連した顎骨壊死が起こるの？**

**A:** 2003年以降、4000件ほどの症例が米国FDA（食品医薬品局）に報告されています。数千万件のビスフォスフォネート系薬剤が処方されていることを考えれば、これは非常にまれな副作用といえるでしょう。これらの症例のうち、経口ビスフォスフォネート服用の患者は非常に少なく、その90%以上は静脈内投与をうけた患者です。一般に、静脈内投与患者では1%以下、そして経口薬の使用患者ではその10分の1以下のリスクといわれています。

**Q: ビスフォスホネートを使用する人には必ずリスクがあるの？**

**A:** 端的に言えば、そうだといえます。この薬剤を使用する人全てに、この副作用の起こる可能性があります。しかし多くの症例は口腔内の外傷（抜歯や口腔外科処置）後におこります。喫煙、ステロイドの使用、ビスフォスフォネートの長期使用、2種類以上のビスフォスフォネートによる治療、糖尿病などもこの副作用のリスクを増すようです。

**Q: どんな状態がビスフォスフォネート系薬剤関連顎骨壊死のサインといえるの？**

**A:** 典型的なサインとしては、歯肉（歯ぐき）の傷の治りが非常に遅かったり、処置後6週間以上経ても全く治癒がみられず骨の露出がみとめられることです。歯肉における“ざらざら感”がはじまったという患者もいます。開いている傷口が感染すると、周囲の組織に排膿や腫脹がみられるかもしれません。多くの場合、最初は痛みを伴わず、露出した骨が感染した場合のみ痛みを生じます。感染が長引くと、特に下顎において、しびれ感がでてくることもあります。

**Q: 顎骨壊死にはどんな治療が可能なの？**

**A:** 残念ながら、現時点で報告されている治療では、顎骨壊死はなかなか治すことができず、一番の方法は予防といえます。現在の治療方法としては、殺菌作用のある含嗽剤の使用・抗生物質の全身投与・腐骨（壊死した骨）の除去とその周囲の清掃などがあります。治療が侵襲的すぎると、時に状態を悪化させることもあります。かかりつけ歯科医師が顎骨壊死の診断をした場合は、オーラルメディシンや口腔外科の専門医に紹介されるでしょう。一般的にその治療は、痛みのコントロールと感染予防に重点がおかれ、正しい治癒を促します。

**Q: ビスフォスフォネートを使用している場合、顎骨壊死を避けるにはどうすればいいの？**

**A:** 侵襲的な歯科処置（抜歯や口腔外科処置など）のリスクを最小限にするための方法について歯科医師と相談してください。専門家による頻繁なクリーニング、家庭におけるケア、口腔内のささいな変化に対する注意深い観察などがよいスタートといえるでしょう。可能であれば、抜歯よりも、歯内療法やその他の保存的処置にてできるだけ自分の歯を残すようにするのが一番です。



## 患者用インフォメーション

# ビスフォスフォネート治療と口腔 (Bisphosphonate ; BP)

かかりつけ歯科医と一緒に、総合的で予防的な治療計画全般について話し合われるべきです。理想的には、ビスフォスフォネートによる治療が始まる前に歯科処置が計画・実行されることでしょう。

**Q: 顎骨壊死はいつも歯科処置と関連しているの？**

**A:** いいえ。入れ歯による刺激あるいは、鋭利な食べ物など他の原因による損傷によって起こったとする症例も報告されており、中には全く直接的な原因の見つからない症例もあるようです。

**Q: 歯科処置の前に、ビスフォスフォネート系薬剤を止めるべき？**

**A:** いいえ、医師によるアドバイスや指示がないかぎり薬を止めるべきではありません。これらの薬は骨の中に蓄積され、時間をかけてゆっくりとその効力をあらわします。たとえ薬を使っていなくても、これらの薬は骨の中に何年間も残ることができます。薬の使用停止によって顎骨壊死のリスクが減るといった証拠はありません。薬を止めるのは、医師が特別にそのように指示した場合にのみ限ります。

このモノグラフに含まれる情報は、教育目的のみに作成されています。本情報は、専門医のアドバイス、診断、治療にかわるものではありません。健康状態についてのご質問は専門医療提供者にご相談ください。本モノグラムに提供された情報のみに頼ることは、あなたの健康のリスクにつながります。

オーラルメディシン米国アカデミー (THE AMERICAN ACADEMY OF ORAL MEDICINE : AAOM) について

オーラルメディシン米国アカデミーは、デンタルメディシン米国アカデミーとして1945年に設立された非営利団体 (501c6) であり、1966年に現在の名称に改称されました。オーラルメディシン米国アカデミー会員は、国際的に認識されるヘルスケアプロフェッショナルのグループを含む、複雑な全身疾患・口腔粘膜疾患・慢性口腔顔面疼痛などを患う患者の口腔ケアに携わる専門医からなります。オーラルメディシンは、複雑な全身疾患の口腔管理を担い、口腔顔面領域に影響を及ぼす医科関連疾患とその病態の診断および非外科的処置を担う歯科専門分野です。

The American Academy of Oral Medicine • (425) 778-6162 • [www.aaom.com](http://www.aaom.com) • PO Box 2016 • Edmonds • WA • 98020-9516